

# 特許 & 技術レポート

河 合同特許法律事務所/SEOUL TECHNO R&C CO., LTD.

2024-10

ハイライト：

米特許商標庁、手数料引上げ推進…デザイン手数料最大87%引上げ	1
サムスンバイオエピス、ヤンセンとステラーラの特許訴訟、英で勝訴	3
D-DAYアプリ「TheDayBefore」、商標権侵害紛争終結…正当な権利を守り抜く	3
LG・サムスン、「低消費電力ディスプレイ」LTP0技術でライバル国を引き離す！	4
韓国LG、グローバルなグリーン・低炭素特許出願で1位	5



## IP制度

### 米特許商標庁、手数料引上げ推進… デザイン手数料最大87%引上げ

米国特許商標庁が特許手数料の引上げを推進する。米国特許商標庁は4月、連邦公報に特許手数料引上げ案を公表し、最近、公開意見を集める手続きを終えた。

米国特許商標庁は、通常2年ごとに手数料の引上げを検討しているが、2020年にも特許登録手数料等を約4～25%引上げた経緯がある。

今回の手数料の引上げは、機関の運営費を補填し、中期の財源を設けるためと公表されたが、引上げ案によると、特許の出願・登録手数料は約5～

10%、デザインの出願・登録手数料は約10～87%上がる。

また、再審査請求 (RCE) の手数料は、回ごとに約10～25%上げられる。3回以上の再審査請求に対しては、従来の手数料より80%上がった3,600ドル賦課される予定だ。

一方、米国食品医薬品局 (FDA) の医薬品許可手続きなどを基に申請する特許期間延長 (PTE) の申請手数料は約468%上げられる。

[米国特許商標庁の特許手数料引上げ案]

区 分		現 行	引上げ案	引上げ率
特許手続き	出願	320ドル	350ドル	9.4%
	検索	700ドル	770ドル	10.0%
	審査	800ドル	880ドル	10.0%
	登録	1,200ドル	1,260ドル	5.0%
デザイン手続き	出願	220ドル	300ドル	36.4%
	検索	160ドル	300ドル	87.5%
	審査	640ドル	700ドル	9.4%
	登録	740ドル	1,300ドル	75.7%

\* 小企業、零細企業には各々60%、80%減免した手数料を適用  
出典：米国連邦公報 (www.federalregister.gov)

[米国特許商標庁の手数料引上げ案]

区 分		現 行	引上げ案	引上げ率
再審査請求(RCE)	1回目の請求	1,360ドル	1,500ドル	10.3%
	2回目の請求	2,000ドル	2,500ドル	25.0%
	3回目の請求	2,000ドル	3,600ドル	80.0%
特許期間延長(PTE)		1,180ドル	6,700ドル	467.8%

\* 小企業、零細企業には各々60%、80%減免した手数料を適用  
出典：米国連邦公報 (www.federalregister.gov)

意見をまとめて最終的に確定した特許手数料の引上げ案は、連邦公報に掲示され、2025年1月から本格的に施行される見通しだ。

これについて韓国知識財産研究院は、「米国特許商標庁は、審査の業務量及び費用を考慮して特許手数料を着実に引上げてきた」と説明し、「米国の今回の手数料引上げ案は、特に、デザイン手続きの引上げ率がかなり高いため、現地に進出する企業にとっては特許費用の負担が大きくならざるを得ない」と加えた。



## 紛争

### サムスンバイオエピス、ヤンセンとステラーラの特許訴訟、英で勝訴

– バイオシミラー企業のうち唯一の勝訴…競争力UP

– 和解金なしに、潰瘍性大腸炎の治療剤として適応症を獲得

英国の裁判所が、ヤンセンの自己免疫疾患治療剤「ステラーラ」(成分名ウステキヌマブ)を巡る特許訴訟でサムスンバイオエピス(以下、バイオエピス)に軍配をあげた。

今回の判決により、今後オランダ等の訴訟でもバイオエピスの勝訴が期待される。バイオエピスは今回の勝訴を契機に、ステラーラのバイオシミラー(バイオ医薬品の複製薬)市場におけるシェアを拡大する計画だ。

8月14日、英国高等裁判所(British High Court)によると、バイオエピスがヤンセンを相手取って提起したステラーラの特許無効訴訟で勝訴した。

リチャード・ミード(Richard Meade)判事は、明白性を理由にヤンセンの特許「EP 3 883 606」は無効と判断した。「EP 3 883 606」は潰瘍性大腸炎の治療に関する特許だ。

ヤンセンが控訴しなければ、バイオエピスがステラーラのバイオシミラー市場の競争で優位に立つものとみられる。バイオエピスがバイオシミラー企業で唯一「EP 3 883 606」に歯止めをかけたためだ。これまで、英国でセルトリオン(Celltrion)やアムジェン(Amgen)、アコード(Accord)等の企業がヤンセンに「EP 3 883 606」の特許無効訴訟を提起したが、和解で終わっている。

バイオエピスは、ヤンセンに和解金を払わなくとも潰瘍性大腸炎治療剤としてステラーラのバイオシミラー「PYZCHIVA™」を販売できるようになった。これに先立ち、バイオエピスは7月26日、欧州に潰瘍性大腸炎を除く板状乾癬、乾癬性関節炎及びクローン病などの適応症でPYZCHIVAを発売している。バイオエピスがヤンセンとの特許訴訟で勝機をつかみ、今後、オランダ等で行われている訴訟でも、バイオエピスにとって有利な流れになると思われる。

バイオエピスは、ステラーラのバイオシミラーの市場シェアをさらに拡大していく方針だ。現地でPYZCHIVAの流通を拡大するため、スイスのバイオシミラー専門の製薬会社であるサンド(Sandoz)とも手を組んだ。

サンドの欧州支社長は、「我々の目標は、ヨーロッパ全域で患者の生活が向上する医薬品を使えるようにすること」とし、「PYZCHIVAは重要な道しるべとなるだろう」と伝えた。

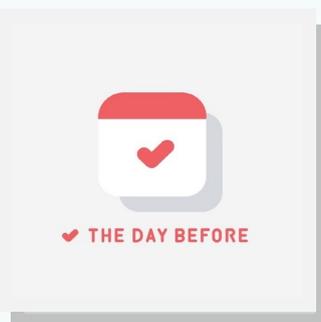
一方、ジョンソン・エンド・ジョンソンの子会社であるヤンセンが開発した「ステラーラ」は、板状乾癬、乾癬性関節炎、クローン病等の治療剤として使われ、昨年のグローバル市場における売上は108億5,800万ドルであった。

### D-DAYアプリ「TheDayBefore」、商標権侵害紛争終結…正当な権利を守り抜く

D-DAYアプリのザ・デイビフォア(代表イ・ソングジェ)が、同じ名前のゲームを対象とした商標権侵害紛争で意味ある勝利を勝ち取ったと明らかにした。

当該アプリは、韓国で2015年に「The Day Before」の商標をイ・ソンジェ代表の名前で登録した。その後、国際的にも商標権を保護するため、マドリッド国際商標として登録を終えた。

しかし、2021年初めにゲーム開発会社であるロシアのFntastic及び流通会社であるシンガポールのMytonaが予告なく同じ名前のゲームを発表して、「The Day Before」に対する商標権侵害の論争は大きくなった。「The Day Before」が国際商標に登録されていて「The Day Before」という名称の商標は登録が不可能な状態にもかかわらず、FntasticとMytonaは確認せずにゲームを発表した。



これに対し、ザ・デイビフォアは2023年1月、米国における商標権をもとにSteam、YouTubeなど主要プラットフォームに商標権の保護を要請し、認められることに成功した。しかし、FntasticとMytonaはこの結果に反発し、韓国及び米国で商標権取り消し・無効訴訟を提起した。

「The Day Before」の商標権紛争は、大半の訴訟でザ・デイビフォアが勝訴した。それにもかかわらず、FntasticとMytonaは、一部不使用取消審判を理由にSteamでのゲームの発売を強行した。これは明らかな商標権侵害であったが、当該ゲームの完成度が非常に低かったため、2023年12月、発売後2週間でFntasticは廃業となった。

このような状況の下、Fntastic及びMytonaは「The Day Before」の商標紛争の負担に耐え切れず、全ての訴訟を取り下げてザ・デイ・ビフォアと和解に至った。

但し、「The Day Before」商標の問題でザ・デイビフォアが被った被害は深刻だ。「The Day Before」という名称が詐欺性のあるゲームと評価され、会社のイメージに大きな打撃を受けた。また、ポータルサイト等でゲームが検索結果にさらされてブランド価値が毀損され、これを克服するために過度なマーケティング費用がかかった。

ザ・デイビフォアの関係者は、「商標権侵害紛争で意味ある勝利へと導くことができ、今回の事件を通じて、商標権保護の重要性を再確認することができた」とし、「今後、さらに徹底したブランド管理及び法的対応を通じて、信頼度の高い企業に成長していきたい」と語った。



## 出願動向

**LG・サムスン「低消費電力ディスプレイ」  
LTPO技術でライバル国を引き離す！**

- 韓国、10年間の出願件数及び年平均増加率で世界1位に
- 多出願企業1、2位はLGディスプレイ、サムスンディスプレイ

「低消費電力ディスプレイ」LTPO OLEDパネル技術において、世界で特許出願が活発な中、過去10年間(2013年～2022年)に韓国は出願件数及び出願増加率でいずれも1位を記録し、LTPO OLEDパネル技術を

を先導していることが分かった。

特許庁が、IP5に出願された世界の特許を分析した結果、LTPO OLEDパネル技術は、2013年は65件に過ぎなかったが、10年間(2013年～2022年)で平均23.7%成長し、2022年には440件に達した。

出願人を国別に見ると、出願件数は、1位の韓国が40.4%(1,052件)で最も多く、続いて2位:中国27.9%(728件)、3位:日本21.8%(568件)、4位:米国6.0%(156件)、及び5位:欧州連合0.6%(16件)の順だった。

同期間の年平均増加率も韓国が70.9%で最も高く、続いて中国(29.8%)、米国(9.2%)、日本(4.3%)であり、欧州連合(0%)は、IP5の年平均増加率23.7%に比べ極めて低かった。

主な出願人は、1位(韓国)がLGディスプレイ(24.9%、649件)で、2位(韓国)がサムスンディスプレイ(14.4%、376件)、3位(中国)にBOE(14.3%、373件)、4位(日本)に半導体エネルギー研究所(SEL)(13.6%、355件)、5位(米国)はApple(4.5%、116件)でこれに続いている。

特に1,2位を占めているLGディスプレイとサムスンディスプレイの出願件数は、出願全体の約40%を占め、韓国が世界のLTPO OLEDパネル技術の研究開発を主導していることが分かる。

米国の特許件数を基準に、出願人別技術影響指数\*を見ると、LGディスプレイが6.1であり、米国のApple(4.4)、日本のSEL(2.7)を抜いて1位を記録した。これは、Apple等がLTPO OLEDパネル技術における基盤特許(Apple:US 9,129,927 B2(2015.9.8.))及び主要特許技術を有しているものの、韓国企業も研究開発を通じてその技術影響力を急速に拡大していることを示す。

\*技術影響指数(Cites Per Patent、特許当たりの被引用数):分析対象(国、企業等)の特許がその後の技術革新活動(特許出願)にどの程度影響を及ぼしたかを示す指標で、当該出願人の被引用回数の合計/当該主体の登録件数を意味する。

特許庁は、「現在、LTPO OLEDパネルの最大顧客であるAppleのサプライチェーンには、LGディスプレイとサムスンディスプレイが含まれる」としながら、「韓国企業がOLEDパネルの世界市場占有率をさらに拡大するためには、持続的な研究開発を通じて原価競争力を高める必要があり、そのために特許庁は、高品質な審査だけでなく関連する特許情報を持続的に提供していくつもり」と伝えた。

## 韓国LG、グローバルなグリーン・低炭素特許 出願で1位…「持続可能な未来への 革新をリード」

世界的にグリーン及び低炭素技術に対する特許出願が急増している中、過去8年間の分析結果により、韓国のLGグループが当該分野で世界1位を占めていることが分かった。

グリーン及び低炭素技術は化石エネルギーである炭素の削減、省エネ及びリサイクル、クリーンエネルギー、エネルギー貯蔵、温室効果ガスの捕集・活用・貯蔵の5つの技術分野に分けられる。

最近、中国国家知識産権局(CNIPA)が発表した報告書によると、2016年から2023年までに世界で公開されたグリーン及び低炭素特許出願件数は1,275,866件に達し、年平均4.7%の増加率を示している。特に、2023年には前年対比13.0%増加した19万3,184件の特許出願がなされ、飛躍的な成長を遂げている。

報告書で注目すべきは、2016年から2023年までの世界のグリーン及び低炭素特許出願人の順位で、韓国のLGグループが38,534件と日本のトヨタを抜いて圧倒的な1位を占めている点だ。また、サムスは15,058件で5位、現代重工業は9,025件で12位に上がり、韓国企業のうち3社がTOP20に入っている。

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
国家										
特許権者										
出願件数	38534	23736	23286	16409	15058	11478	10661	10120	9906	9227
順位	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
国家										
特許権者										
出願件数	9107	9025	8333	7543	7095	6791	6760	6548	6413	6399

2016～2023年、世界のグリーン・低炭素特許出願TOP20(出典/韓国知識財産研究院)

韓国知識財産研究院の研究員は、これに関して、「世界的に持続可能な目標(SDGs)達成のために努力する中、韓国特許庁(KIPO)はカーボンニュートラル(炭素低減)に寄与するグリーン技術特許に対して優先審査要件を緩和するなど、積極的な対応をしている」と語った。さらに「今後、韓国企業がこれら政府の努力を足場にし、グリーン及び低炭素技術の迅速な権利化を通じて、グローバル競争における優位を確保することができるはず」と見通している。



## 最新技術

### サムスン電子、業界初の第8世代V-NAND 車両用SSDを開発…年内量産

－ 電力効率50%改善…自動車業界の先端IVI搭載の流れを反映

サムスン電子は9月24日、業界で初めて第8世代V-NANDを適用したPCIe4.0車両用ソリッドステートドライブ(SSD)「AM9C1」を開発したと発表した。今回の製品は、5ナノ基盤のコントローラを搭載し、連続読み取り・書き込み速度を向上させるSLC

モードをサポートする。

サムスン電子は、主要顧客に業界最速である256GBのサンプルを提供し、本格的な市場拡大に乗り出した。256GBの製品では、それぞれ秒速4,400MB、400MBの連続読み書き速度が提供される。SLCモードに切り替えると、連続読み書き速度がそれぞれ4,700MB、1,400MBに速まる。

また、前作に比べ電力効率が約50%改善されて、車両内のオンデバイスAI機能のサポートに最適化されている。AM9C1は、氷点下40度から摂氏150度までの温度範囲で安定した性能を保障し、車両用半導体の品質基準であるAEC-Q100のグレード2を満たしている。

サムスン電子は、今回の製品が車両用高性能・高容量SSDの需要に合った最適なソリューションだと明らかにした。

グローバル自動車業界では、生成AIを活用した最先端インフォテインメント(IVI)システムの搭載に注力してきたため、車両用SSDの使用量が増えている。

市場調査機関のオムディアによると、昨年1車両当たり平均71.3GBのNAND製品が搭載され、2028年には、この4倍の288.1GBのNANDが搭載される見通しだ。

メモリ事業部商品企画チームのチョ・ヒョンドク常務は、「サムスン電子は、業界をリードするグローバルな自律運転企業と協力しており、今回の製品を通じて、大容量・高性能製品に対する需要を満たすことができるものと期待している」と語った。

AM9C1製品は、128GB、256GB、512GB、1TB及び2TB等、多様な容量のラインナップで発売される予定だ。

特に、第8世代V-NANDの基準となる2TBは、業界における最大容量であり、来年初めに量産を計画している。今年は、256GBの製品を量産する予定だ。

また、サムスン電子は、車両用半導体市場で求められている高い安定性を検証するため、様々な車両用の開発及び管理プロセスの認証を行っている。

サムスン電子は、ISO/SAE21434に基づくサイバーセキュリティ管理体系であるCSMS認証を取得し、3月にUFS3.1製品でソフトウェアの開発標準であるASPICE CL3認証を受けた。

メモリ事業部のオ・ファソク副社長は、「ASPICE及びISO/SAE21434認証は、韓国の技術の信頼性及び安定性が対外的に認められる重要な道しるべ」としながら、「今後も安全性及び品質を向上させ、顧客に最高のソリューションを提供していく」と語った。

**韓国における知的財産問題でお悩みですか  
新しい選択、HA&HAにお任せ下さい。**

(調査、特許・実用新案・デザイン・商標の出願及び登録、著作権、電子商取引、  
インターネット上の権利、コンピュータープログラム、侵害訴訟及び各種紛争)

**河 合同特許法律事務所**

ソウル市瑞草区Juheung 3-Gil 1 栄和B/D(盤浦洞)

Tel : +82-2-548-1609

Fax : +82-2-548-9555, 511-3405

E-mail : haandha@haandha.com

Website : <http://haandha.co.kr>

**SEOUL TECHNO R&C CO., LTD.**

ソウル市瑞草区Juheung 3-Gil 1 栄和B/D(盤浦洞)

Tel : +82-2-3443-8434

Fax : +82-2-3443-8436

E-mail : [st@stpat.co.kr](mailto:st@stpat.co.kr)